



# まちづくり活動部門

## ■若宮地区まちづくり協議会（芦屋市）



- 芦屋市が進める若宮地区震災復興環境整備事業を推進することにより、安全で安心して住める、住民のためのより良いまちとする目的を達成させた。
- 4階を標準に分節分棟とした個性豊かな市営住宅の建設や4つの街区ごとにコンセプトの違う広場を市との協働のもと整備した。
- まちなみ緑化助成制度の地区指定を受け、自立再建した戸建て住宅の緑化を推進した。
- 当初の13年度完成の予定を1年短縮した震災後5年目というきわめて短い期間で地区の復興を成し遂げた。

## ■ユリの寺周辺整備促進委員会（竹野町）



- 地区の花の拠点づくりとして、旧来地域の遊びや人々の拠り所であったが、整備前は雑草が生い茂り人の寄りつかなかった無住の長養寺周辺を、住民の安全と安らぎの場として整備し、寺境内は手作りで「ユリの花壇」を完成させた。
- さまざまな先進地視察や自生ユリ科の調査、移植可能な土壌づくりの研究、色彩感覚や維持管理に配慮した花壇等の整備計画の策定を自分たちで行った。
- 日常的に地域住民が訪れ、維持管理を行い、その取り組みが竹野町のモデルケースとなっている。

## ■荒牧夢のまち応援団（伊丹市）



- 荒牧夢のまち応援団は、コンサルタントに頼らず自分たちでポケットパークの基本デザインを行い、市長に提言した。ポケットパーク完成後、「荒牧ゆめひろば」と名づけ、その管理を行っている。
- 市と市内の景観まちづくり団体（丹念会及び多田街道の景観を創る会）と共催で都市景観ウォークラリーならびに都市景観シンポジウムを開催した。
- ポケットパークという公共空間整備を核に、私的な空間も公共空間と一体化をなす整備が進み、まちなみに小空間を演出し、ゆとり・うるおいのあるまちなみ形成が行われている。

## ■江原駅東街づくり委員会（日高町）



- 同委員会は日高町が進める江原駅東土地区画整理事業に協力し、活動を続けながら自分たちのまちづくりを実現した。
- 江原駅東地区にふさわしいまちなみの統一を目指して同委員会で研究、議論を重ね、日高町の玄関口にふさわしい高原リゾート風の街並み景観形成基準が策定され、建物移転再築の際には、その基準による建物の再築を住民や事業所が行い、統一した街並み景観を創り上げて自分たちのまちを完成させた。
- プランターの設置など景観と調和する緑化を行うなど江原駅東地区の更なるまちづくり活動に取り組んでいる。

## ■メリーポピンズの会（市民園芸ネット）及び日曜大工ボランティアでえくさんず（宝塚市）



- 平成12年4月にオープンした仁川デイサービスセンターの入り口に至る通路の片側は高さ3m、長さ20mのコンクリート擁壁で、圧迫感があった。利用者や地域の方々を明るく迎えるために、「でえくさんず」が高さ2m、長さ20mのトレリスを製作し（平成13年7月）、「メリーポピンズの会」で育苗した草花などを植栽した。日常の世話は「メリーポピンズの会」に属する仁川デイの園芸グループ「クレセント」が行っている。
- 「メリーポピンズの会」と「でえくさんず」の尽力により生まれ変わった仁川デイの玄関前は、利用者のみならず地域の人々にも「美しい、明るい」と大賞賞ばれている。

## ■朝来町山内地区（朝来町）



- 朝来町山内地区は、朝来町より委託を受けた市民農園「クラインガルデン伊由の郷」の管理運営はもとより、山内地区住民と農園利用者との交流事業を積極的に推進し、地域の活性化に努めている。
- 地区内に「交流田」を設け、田植え、稲刈りを農園利用者（都市住民）と地区住民が一緒に行い、交流を深め、収穫したお米を使った収穫感謝祭も一緒に行っている。
- クリーン作戦に地区住民と農園利用者が一緒に参加し、地域及び市民農園の美化活動を行い、美しいむらづくりを推進している。

## ■箬荷むらづくり委員会（加美町）



- 平成11年度から景観むらづくりに取り組み、学習会やワークショップ、住宅全戸の色彩調査、先進地の視察研修などを実施した。平成12年度は具体的な協定書づくりを行い、美しい農村景観を次代に残していくため、地区内において建物を建てたり改築したりする場合に農村景観に配慮した構造、色、形とすることなどを申し合わせた「景観むらづくり協定」を平成12年12月に結んだ。
- 県が認定する住民協定制度の第1号で、平成13年2月9日に県知事から認定を受けた。
- 加美町内で進められている「村の名物・自慢づくり運動」の一環として活動し、地域のむらづくりの中心となっている。

